写真 15　排水路整備前（東から）
写真下の水路が裏鉄門の雨落溝。

写真 16　蓋取り外し後（東から）

示するため、石垣に沿って植栽を行いました。

**排水路の整備**

排水路の整備は地上には表れない部分ですが、石垣の保全や来城者の安全性の確保などの観点から重要な整備です。今回は、発掘調査でみつかった豊島石製暗渠排水溝を利用して整備をしました（写真 15）。裏鉄門の北東側から水を集め、裏鉄門西側石垣にみられる吐口から排水する経路です。

写真 17　管の埋設（東から）
管は遺構に合わせ屈曲を調整。

排水溝は津山城の遺構であるため、傷めないように保護し、その中に管を入れて排水路として使用します。排水溝には蓋があるため、外せる部分は蓋を外して管を設置しました（写真 16、17）。また、土系舗装は水が流れやすいように勾配をつけています。

今回の整備により、本丸搦手側の降り口から裏中門までの通路整備が完了しました。通路の土系舗装を行ったため、雨の日にぬかるむ心配もありません。今後とも江戸期の景観復原を目指すとともに、みなさまが快適に城内で過ごすことができるよう整備を進めていきたいと思います。

写真 18　整備前の裏鉄門周辺（左が北）

写真 19　整備後の裏鉄門周辺（左が北）

## 落石防止柵を設置しました。

二の丸東側石垣は、津山城の本丸から一段下がったところに位置する南北約 66 m、高さ約 7 mの腰石垣です。昭和 39 年の集中豪雨により南側の 24.5m が崩落したため、翌 40、41 年の 2 ヵ年で積み直しを行っています。一方、積み直しを行っていない北側部分は一部石垣が孕んだ状態で、現在に至っています。

石垣が急な斜面の上にあることや、斜面の下には民家や神社が存在することから、安全対策のために斜面の法面上に落石防止のためのフェンスを設置しました。

孕み出している石垣については、平成 23 年度から石垣の定点観測を行っており、今後も注視していきます。

写真 20　二の丸東側石垣と落石防止柵（矢印部分にフェンス）

津山城だより No.21 2017年3月 津山市教育委員会 文化課

| | |
|---|---|
| 発行年月日 | 平成 29 年 3 月 31 日 |
| 編集・発行 | 津山市教育委員会文化課<br>〒 708-0824 岡山県津山市沼 600-1<br>ＴＥＬ （0868）24 － 8413 |
| 印　　刷 | （有）弘文社 |


# 津山城だより

TSUYAMAJODAYORI

No.21 2017 年3月
津山市教育委員会
文化課

## 七間廊下周辺の発掘調査を実施しました。

写真 1　発掘された七間廊下周辺（上から）

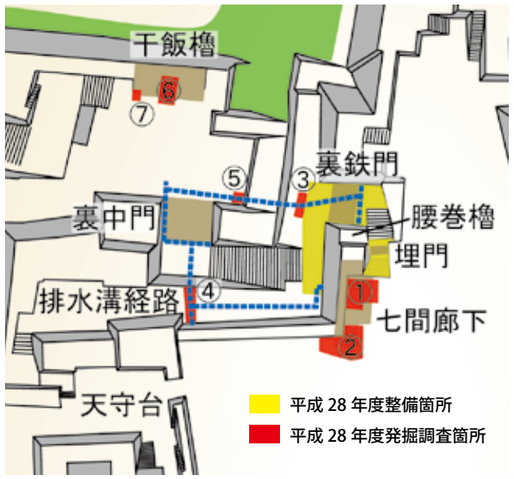


図 1　発掘調査位置と整備位置

史跡津山城跡保存整備事業では、現在通路部分を中心に整備を進めています。整備工事に先立ち、通路とその周辺部の発掘調査を行っています。

平成 28 年度は、搦手（からめて）側の七間廊下（しちけんろうか）周辺、裏鉄門（うらくろがねもん）の西側、裏中門（うらなかもん）周辺、干飯櫓（ほしいいやぐら）の発掘調査を行いました。発掘調査により、築城の際の造成の状況や、築城時の地表面等を明らかにすることができました。

整備工事では、本丸から搦手（うずみもん）側の埋門（うずみもん）にいたる雁木（がんぎ）（石の階段）の積み直しや腰巻櫓（こしまきやぐら）石垣の遺構表示を行いました。

今回は、これらの事業概要を中心に紹介します。

**七間廊下について**

七間廊下は、本丸から搦手口に降りる埋門の南西にあります。幅２間、長さ６間半の畳敷きで、執務の場である小書院から藩主の居間へとつながる大きな廊下の一部です（図２）。現在、七間廊下の東側には石垣がありますが（写真２）、この石垣の東面は石の積み方から江戸期よりも後に積まれたと考えられます。調査は、この部分の江戸期の石垣基礎の有無を確認する目的で行いました。

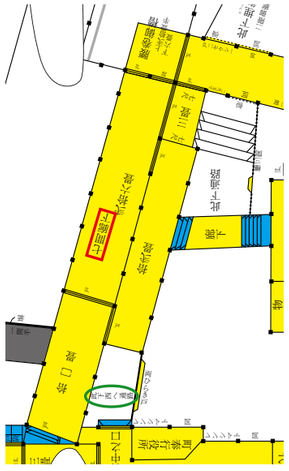

図２　文化５年絵図
赤丸が七間廊下。

写真２　現在の七間廊下東面石垣（東から）

**調査概要**

**調査区１**

調査区中央及び東側からは石列と枡が、西側からは土製の桶のようなものがみつかりました。石列は２列あり、七間廊下の西面石垣と平行していることから、七間廊下建物の礎石と推定されます。枡は調査区東西に２つあり、土層の堆積状況から、礎石以前のものと考えられます。枡の底面には平らな石が敷かれ、内部から木の板をつなぎ合わせるための鉄釘が出土しました（写真３）。土製の桶については城内では類例がありませんが、地下室（ちかむろ）の可能性があります。

写真３　調査区１の枡（南から）
青矢印が釘。縦方向と横方向のものがみられる。

写真４　表中門出土の木製枡
底板の上に側壁を立て、鉄釘で止めている。

**調査区２**

調査区南側から塼敷（せんじき）がみつかりました。塼とは瓦質のレンガのことです。高貴な人が利用する場所に用いられ、建物の基礎や壁として使われたり、床に敷いて使われます。みつかった塼は１枚が１辺24㎝の正方形で、南北方向に８枚（約１間）幅で敷かれています。また、塼敷きの方向は調査区１でみつかった礎石列と直交します。この部分の絵図をみると（図２の緑丸部分）、「此下西へ通路」の表記があることから、建物の下をくぐる通路に敷かれていた可能性があります。

写真５　調査区２塼敷（東から）
北端（写真右）の塼は半分に割られたものが敷かれている。

**まとめ**

今回の調査では、江戸期の石垣基礎は確認できませんでしたが、現在の石積みに接する箇所でみつかった遺構もあることから、江戸期の石垣は、現在の石積み部分に積まれていたか、石積みではなかった可能性も考えられます。

## その他の発掘調査について

今後の整備工事に先立ち、江戸期の地表面の高さや遺構の有無の確認を目的として通路の周辺部分の発掘調査を行いました。

**裏鉄門西側（調査区３）**

裏鉄門の西側を調査しました。過去に実施した裏鉄門の調査でみつかった豊島石製の暗渠排水溝の続きを確認することが主な目的です。

調査の結果、排水溝の続きが確認できました。排水溝は調査区中央で少し北寄りに折れ、西側の石垣天端から50㎝のところにある吐口から流れ出る構造となっています。

**裏中門周辺（調査区４、５）**

七番門から二の丸へいたる通路部分（調査区４）と裏中門の北東部（調査区５）を調査しました。

調査区４では、豊島石製の排水溝と岩盤を掘りくぼめて作られた枡がみつかりました（写真７）。南側石垣の吐口からの水を枡が受け、排水溝を通って北側石垣の吐口から排水される仕組みです。

写真６　調査区３全景（東から）



調査区５では豊島石製の排水溝が南北２列に並んでみつかりました（写真８）。裏鉄門西側石垣の吐口から流れてきた水を西側に排水する経路にあたります。北側の排水溝は底部の石を一部欠いています。また、南側の溝の側壁として北側溝の側壁を利用している状況がみられることから、もとは北側にあった溝を南側に付替えたと考えられます。

**干飯櫓（調査区６、７）**

裏中門の北側は、現在はなだらかな坂のようになっていますが、絵図などから江戸期は低い石垣の上に建つ干飯櫓と、櫓に上るための雁木があったことがわかってい

写真７　調査区４全景（南西から）赤矢印が枡。

写真８　調査区５全景（西から）

図３　津山城絵図に描かれた干飯櫓
赤矢印が雁木。

ます（図３）。これらの痕跡の有無を目的として調査を行いました。

調査の結果、東西方向に並ぶ石列がみつかりました（写真９）。石列は南側に面をもち、地山を掘り込んで据えられています（堀込地業（ほりこみちぎょう））（写真10）。絵図との位置関係などから、石列は干飯櫓南側石垣の最下段の石（根石（ねいし））と考えられます。石垣の背面では地山から土を叩き締めながら盛り上げていく状況（版築（はんちく））がみられました。

写真９　調査区６干飯櫓石垣の根石（南から）

残念ながら、江戸期の地表面や櫓に上るための雁木の石は確認できませんでしたが、櫓石垣の根石を確認することができました。根石の表面に加工痕があることから、根石の一部が地表に出ていたと考えられます。

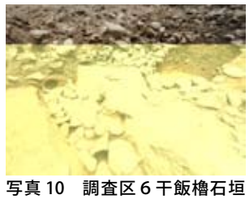

写真 10　調査区６干飯櫓石垣の掘込地業（東から）

写真 11　調査区７干飯櫓石垣の根石（南から）
矢印は根石の加工痕。

## 裏鉄門周辺を整備しました。

津山城の搦手側、本丸の北側の降り口から裏鉄門下の雁木の手前までを整備しました。整備項目は、埋門上の雁木の復旧、埋門東側石垣の間詰石補修、裏鉄門及び腰巻櫓石垣の遺構表示、裏鉄門から裏鉄門下雁木までの通路の舗装及び排水路の整備と多岐にわたります。ここでは、腰巻櫓石垣の遺構表示と排水路の整備について詳しく紹介します。

**腰巻櫓石垣の遺構表示**

腰巻櫓石垣は、裏鉄門の南側に位置し、七間廊下石垣を包み込むような構造でした。明治23年に石垣が崩落し、その後修復されましたが、元のとおりではなく、腰巻櫓石垣の西面は七間廊下石垣西面のラインに合わせて積み直されます。過去の発掘調査により、本来の西面石垣の基底部が明らかになったため、この部分の遺構表示を行いました。

なるべく現状に手を加えず、石垣であったことがわかるようにと、石垣を構成する大きな石（築石（つきいし））は現状のままとし、石垣内部の栗石（くりいし）を補充しました。補充した栗石は、城内でストックされていた石を使用しています。また、本来の腰巻櫓石垣西面のラインをわかりやすく表

写真 12　腰巻櫓石垣整備前（北から）
黄線が本来の腰巻櫓石垣西面ライン。

写真 13　腰巻櫓石垣整備後（北から）